



## 〈 社会人の窓 27 〉

### 川遊びの大切さ

丸井 晶子

「今年の夏は暑い！本当に暑かった！」と誰もが異口同音に何度も口にされたのではないのでしょうか。実際、今年の夏(6月～8月)の平均気温は、「過去2000年で最も暑かった」昨年と同様、過去最高に並んだということです。

こうした地球温暖化(気候変動・気候危機)は、大きな自然災害を引き起こす原因になります。例えば、今年も各地で発生したゲリラ豪雨や長引く大雨による被害、落雷の多発による森林火災等々。もちろん自然災害だけでなく、生態系や私たち人体への影響も甚大です。

私の所属する「NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議」では、この気候変動(地球温暖化)の問題を最重要課題と位置づけ様々な取り組みを展開しています。今年度は9月から12月まで毎月1回、「枚方から気候変動を考える ひらかたアッチッチサミット」を実施しています。

さて前置きが長くなりましたが、先に挙げた水害に絡んで、川と私たちの関係について少し考えてみました。私が小学生だったころ、木津川の海水浴場(川なのになぜか海水浴場でした)に学校から集団で行きました。もちろん近くの川でもよく遊びました。このように川遊びは非常に身近なものでした。ひるがえって、現在の子供たちは勿論、その子供たちの親世代も、川で遊んだ経験はあまりないのではないのでしょうか。この“経験の無さ”が、いつの間にか子どもたちを川から遠ざけてしまう結果に繋がっていると思うのです。

皆さんもご存知のように、「琵琶湖・淀川流域圏再生計画」のテーマの一つに『水辺の賑わい創出』があります。そこでは『まちに潤いをもたらす「せせらぎの創出」を図り川に向けたまちづくりを進めると共に、人々が水辺に親しめる「親水空間の再生・創出」により“まちと水”“人と水”とのつながりを再生する』とあります。

この夏、当法人では、法人事務所横を流れる「天の川」で、親子イベントを実施しました。前述の「親水空間の再生・創出」がなされているかどうかは分かりませんが、まずは「川に親しむ」機会を設け、川の素晴らしさ、怖さを知ってもらう。そうすることで、今後ますます多発することが予想される、洪水等による水災害に対する防災意識が涵養されると考えています。とは言え、

川の危険性を知ったうえで純粋に川遊びを楽しんでもらえることが一番です。その楽しさを知る子供たちが増えていくことを願って今後も取り組みを続けていきたいと思っています。

(NPO ひらかた環境ネットワーク会議 副理事長・事務局長  
琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 事務局長)



笹舟レースの様子



水入りペットボトルでの救助講習

## イベント案内

- ・琵琶湖東岸流域見聞バスツアー  
2024年10月14日(月・祝)
- ・京の川の恵みを活かすフォーラム・食味会  
2024年10月27日(日)・11月4日(月・祝)
- ・天若湖アートプロジェクト～あかりがつなぐ記憶  
2024年11月9・10日(土・日)
- ・大和川流域治水見聞バスツアー  
2024年11月15日(金)
- ・クリーンリバー寝屋川作戦  
2024年11月17日(日)
- ・茨田イチョウまつり  
2024年11月24日(日)

バスツアーの詳細は3頁

# イベント報告

## 巨椋池バスツアー

7月14日(日)、淀川愛好会、水辺に学ぶネットワーク、日本水防災普及センターの共催で、巨椋池流域見聞バスツアーが行われました。このツアーは、かつて存在した巨椋池の歴史をたどるとともに、干拓地が現在抱えている課題や将来像について、情報を共有しようというねらいで開催されたもので、19名の参加がありました。

集合場所はさくらであい館で、午前10時にバスで出発し先ず、巨椋池排水機場を訪れ、資料をいただくとともに、構内にある巨椋池まるごと格納庫で巨椋池周辺の立体模型を囲んでビデオ映像の説明を聞いた後、大池神社を訪れて、漁業記念碑と昭和28年水害時の水位痕跡を確認しました。続いて、東一口(ひがしいもあらい)にあるかつての巨椋池漁業の拠点、旧山田家住宅を見学した後、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーで、昼食休憩を取りつつ、巨椋池流域模型ビオトープを見学しました。ちょうどハスの花が見ごろで、オグラコウホネやムジナモの説明、また、ビオトープ前に置かれた中聖牛水制工の実物大模型や、川舟の展示にも大きな関心が寄せられました。

午後には、桃山御陵前の230段の階段を上がり、向島ニュータウンや巨椋池干拓地を眺望した後、天ヶ瀬ダムへ向かいました。天ヶ瀬ダムでは、最近完成したトンネルからの放水に伴う対岸の崩落や、アーチダムの安全性に対する不安などについて意見が交わされました。その後、巨椋池干拓地の中を南に抜けて木津川を渡り、昨年8月の大雨で流失し今年4月に復旧した上津屋橋(流れ橋)を見て、午後4時にさくらであい館に戻り、意見交換して解散しました。(澤井健二)

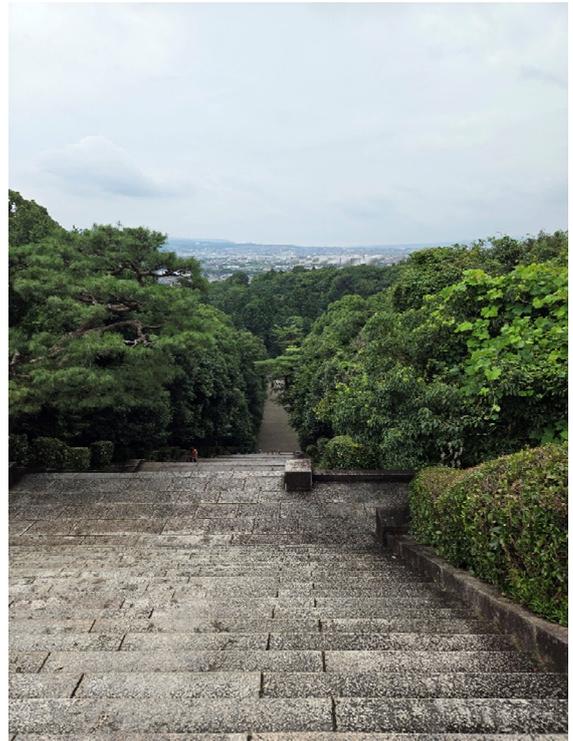


巨椋池まるごと格納庫での様子

自分の研究にも関係があるため、巨椋池バスツアーに参加させていただきました。巨椋池周辺での建物や水害について詳しく説明していただき、様々な地点を見せていただきました。また、桃山御陵前ではバスツアーに参加した皆さんと長い階段を上り、明治天皇伏見桃山陵を訪れました

が階段を上り終えたときには皆さん息が上がっていました。しかし、上った甲斐もありそこから見える景色はとてきれいでした。

(原之村慧文)



桃山御陵前の階段からの景色

## 「水辺の匠」Eボート体験



Eボートの様子

7月21日(日)、琵琶湖流域の瀬田川で水辺の匠Eボートが開催されました。

前日まで流量の問題で開催できるか分かりませんでした。炎天下の中、みんな一生懸命頑張ってくれました。

イベントは10時から15時まで開催され、Eボートの運航は合計4回行いました。

普段のEボートの運航時間は5~10分ほどですが、今回のイベントでは20分の運航時間を取ったため、お客さん

にも「長く乗れて楽しかった」と喜ばれました。

お客さんは 50 人ほど来られ、スタッフを合わせると約 70 人がこのイベントに参加していました。

この活動は琵琶湖河川事務所の協力で実施しました。  
(エコシビル部部长 増木俊迪)

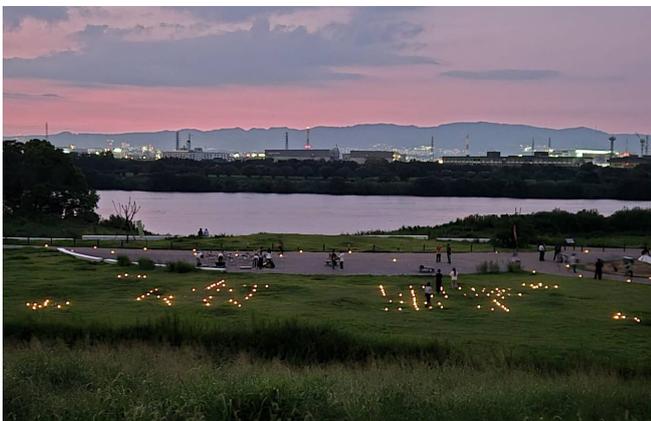
## 淀川まるごと体験会

9月8日(日)に淀川点野で、淀川まるごと体験会が開催されました。今回は午前9時から12時まで開催しました。約30人の親子が参加し、Eボートやカヌー、どんぐり工作などを行いました。また、防災の意識を高めるために、破堤実験モデルや防災関連のパネルが展示されており、冠水道路歩行体験もすることができました。とても日差しが強く、暑い中の開催でしたが、子どもたちはそんなことを感じさせないくらい元気に活動していました。また、Eボート体験にあたってはエコシビル部や元エコシビル部の4回生、石田ゼミ生の協力により、安全に運行することができました。(原之村慧文)



淀川まるごと体験会の様子

## キャンドルナイト



キャンドルナイト「点野」

9月8日(日)に淀川点野で、淀川まるごと体験会の後にキャンドルナイトが開催されました。このイベントは摂南大学のエコシビル部と吹奏楽部が合同で行いました。淀川

点野で日が暮れる18時頃からキャンドルの点灯が行われ、その灯りとともに吹奏楽部の皆様に演奏していただきました。エコシビル部の考案により、初めてのイベント開催でしたが、参加した地域の方々からの良かったというお言葉をいただきました。

また、キャンドルの配置にもこだわり、点野での開催ということで「点野」という字を作り、キャンドルを点灯させていました。同日はイベントが重なり、とても大変でしたがなんとか無事に終わることができ、良かったと思いました。(原之村慧文)

## イベント案内

### 琵琶湖東岸流域見聞バスツアー

日時 2024年10月14日(月・祝) 10時~16時半  
集合 9:30 JR琵琶湖線 石山駅北口ロータリー  
行程 10:00 石山駅発 11:00 近江八幡市 大中の湖干拓地見学  
12:00 近江八幡市日牟礼八幡宮公園で昼食休憩  
13:00 八幡宮発 14:00 長浜市早崎内湖見学  
16:30 JR琵琶湖線 大津駅前解散

主催 淀川愛好会、水辺に学ぶネットワーク、日本水防災普及センター

共催 琵琶湖・淀川流域圏連携交流会、3つのみずたまりプロジェクト

現地説明 環境用水研究会会長・滋賀県立大学名誉教授 秋山道雄氏

参加費 無料(昼食は各自持参または近江八幡市内レストラン等利用)

定員 20名 申込 9月30日(月)までに、メールで下記のいずれかへ

連絡先 水辺に学ぶネットワーク 澤井健二

[kenjisawai@mta.biglobe.ne.jp](mailto:kenjisawai@mta.biglobe.ne.jp)

BY ネット 丸井晶子

[jimukyoku@hirakata-kankyou.net](mailto:jimukyoku@hirakata-kankyou.net)

### 大和川流域治水見聞バスツアー

日時 2024年11月15日(金) 10時~17時

集合 9:30 京阪電車中書島駅北口改札前

行程 10:00 バス発

11:00 近畿技術事務所 ふれあい土木展

13:00 JR王寺駅

川西町保田遊水地工事現場見学

14:30 亀の瀬地すべり資料室見学

17:00 京阪電車中書島駅 解散

主催 淀川愛好会、水辺に学ぶネットワーク、日本水防災普及センター

参加費 無料(昼食は各自持参)

定員 20名 申込 10月31日までに下記へ

連絡先 澤井健二 [kenjisawai@mta.biglobe.ne.jp](mailto:kenjisawai@mta.biglobe.ne.jp)

## 〈 学生の窓 27 〉

### 点野ワンドの生物調査

中林依吹

私は石田ゼミに在籍しており、主に点野の生物調査を研究テーマにしています。昔から生物や環境に関心があり、大学1回生のころから3回生までエコシビル部として点野の環境整備に取り組んでいました。土木学科としてまちづくりと自然について考える機会が多く、より環境について学びたいと思い石田ゼミに入りましたが、部活動と違い、研究では内容の規模や専門性が高まり、より深く自然と関わるようになったことが嬉しいと感じています。

毎年、石田ゼミでは研究テーマとして点野の生物調査を取り上げています。今年からは例年の内容に加えてヌートリアによる被害を調べるため貝の調査にも取り組んでいます。貝類調査では自然死ではなく、ヌートリアによる被害だと分かる現場もあり、貝についてはもちろん、段々とヌートリアについても理解を深められていると感じています。前例がない調査ではありますが手探りで進めていく楽しさもあり、結果が出るところまでぜひやり切りたいと思っています。

研究を通した学外の方との交流も貴重な経験であり、大学4回生の1年間を大切に、そして有意義に過ごしたいと思います。

(摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ4回生)



ヌートリアによる被害



現地の二枚貝の様子

## 書籍紹介「矛盾の水害対策」

著者：谷 誠

発行：2023年12月2日

発行者：株式会社 新泉社

定価：本体 2500 円＋税



最近の降雨規模の増大による大水害の頻発に対して、公共事業だけでは水害は防ぎきれないことで「流域治水」の重要性を強調するが、なぜ、水害はなくなるのかという。

流域治水において、水を溢れることを前提に考えると、「水害対策の計画目標を達成することの矛盾」が誰の目にも明らかになってしまったわけである。公共事業のゆがみを川と森と人のいとなみからただすという。そして、予測できない自然災害の解決の矛盾を社会的課題として、たとえば水循環や水収支や河川事業がかかえる利害調整などの問題を森林水文学者が多角的に語るワクワクするような読み応えのある素晴らしい本です。

### 編集後記

今回は、素晴らしい多くのイベント報告や案内をするなか、しかも能登半島地方では猛烈な雨が降り、9月22日には、大雨警報が発表され、能登半島地方に、記録的な大雨が短時間で降り、多くの河川の氾濫や土砂崩れが相次ぎました。

そして輪島市、珠洲市、能登町を流れる河川で、氾濫が発生した河川は16あります。現在の温暖化や異常気象や線状降水帯などを考えると、このような小さな河川は、県や市で管理し河川の状況を把握するのは難しい状況ではないか思います。

流域治水が叫ばれているなか、地域の集中豪雨などの対応に対して小さな川を含む河川ごとの「流域治水」を見直し、流域で修理・修繕して管理していかなければならない治水状況におかれているのではないかとと思うのです。

地球温暖化による海水面温度の上昇で、短時間で大雨を降らす状況を、森林を含めた土砂崩れや洪水などの災害を、忘れそうな小さな「流域」から地方の自然災害を見直し、少しでも少なくしていくことが問われていくだろうと思います。

編集長 岡崎善久(岡崎善久建築設計事務所)